ホームページ　http://www.nihonkanpoukyokai.com/
E-mail:　j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

日本漢方協会通信　２６年１１月

第１回　尾台榕堂顕彰会

平成 26 年 10 月 26 日（日）住居跡碑からほど近い東京八重洲で第１回尾台榕堂顕彰会が開催された。午前の部：指定講演小曽戸洋先生「尾台榕堂の著書と遺墨」の演題で榕堂の門人・杉本周徳が書き残した「尾台良作（榕堂）略伝」を元にその生涯についての講演がされた。江戸での 10 年の医学修行の後郷里に戻り開業したが幼いときの苦労を忘れずに驕ることのないようにと、医業の傍ら農作にも励み自分を戒めていた。再び江戸にて師家を継ぎ、たくさんの門人を育てている。榕堂は 66 歳でなおも毎晩読書をし、午前 0 時就寝。午前４時に起床し、また机に向かっていた。弟子には昼夜を問わず質問しに来て良いとしていた。大変勤勉で、信念を持って治療にあたった姿がしのばれた。続いて榕堂の生誕の地である新潟県十日町市の市議会議員・吉川重敏先生が「尾台榕堂住居跡碑完成までの道のり」の演題で講演された。十日町市では平成２年に没後 120 年事業で生誕地に石碑を建立。住居跡碑は没後 140 年事業の一環として計画された。平成 23 年 10 月に建立された住居跡碑は、尾台家の言い伝えをもとに江戸切絵図写真で尾台良作を見つけ、それを現代の住宅地図と照合、実際に歩いて場所を特定したと述べられた。東京都中央区の史跡となっている。続いて六代目と子孫となる尾台展弘氏が話された。（いとこの金子良隆氏も出席）

午前の講演後には参加者全員で住居跡碑で記念撮影をした。

午後は渡辺浩二先生が「尾台榕堂と浅田宗伯との交流模様」の演題で幕末漢方医の二大巨頭であり、友人でもあった。その著書や幕末に勘定奉行や外国奉行を歴任した川路聖謨の日記である「東洋金鴻」にみる２人の交流を講演された。

特別講演「尾台榕堂先生と『方伎雑誌』」の演題で花輪壽彦先生が話された。晩年の著書である「方伎雑誌」には吉益東洞への敬意が随所にみられ、病人の診療法、腹診の仕方、医師としての心構え、貧家を大切にし、そのために自身も清貧にいることを厭わないことなどいたるところにその人となりが読み取れるとされ、通覧して「仁術の人」と呼ばれる尾台榕堂の「人となり」を顕彰された。榕堂が医術が好きだったことが勤勉や技術に通じている。

次回は 2016 年に予定されている。「尾台榕堂をＮＨＫ大河ドラマに」の実現が待ち遠しい

是沢初美様　記